

きょうだいを 自死・自殺で亡くした わたしたちの声

全国自死遺児500人調査特別フォーラム第二弾

2026年 9月5日 土

13:00 ~ 15:00 (12:30 開場)

会場

同志社大学今出川キャンパス
良心館RY106番教室

京都府京都市上京区相国寺門前町
市営地下鉄「今出川駅」1番出口より徒歩0分

私たちは、2025年の春より、親やきょうだいを自殺で亡くした、当時0～19歳だった子どもの声をきき、そうした子どもたちとその家族に必要な支援（グリーフサポート）のあり方を明らかにすべく「全国自死遺児500人調査」を実施しています。

本フォーラムでは国の「自殺予防週間」（9/10～16）を前に、子ども時代に、きょうだいを自殺で亡くした当事者の声を届けることから、身近な人の自死・自殺を経験した子どもたちのサポート、遺族支援について、共に考え、この社会でどのようなサポートが求められているかを一緒に探求したいと願っています。

対象

自死/自殺、きょうだい支援、遺児支援、
子どものグリーフサポート
というテーマに関心のある方

※教育関係者、行政、教員、心理職、医療者、研究者、
学生、当事者など、どのような方もご参加いただけます

形式

現地参加 / アーカイブ視聴

いずれも無料でご参加いただけます

お申込はこちら



9/4(金)20時締切

お問合せ

岡山県立大学 大倉高志研究室
大倉 高志（おおくら たかし）

☎ 0866-94-2208

✉ t-okura@fhw.oka-pu.ac.jp

本フォーラムは、京都府令和8年度自殺対策事業補助金と、科学研究費助成事業 基盤研究(C)（一般）「0～19歳の時期に自殺で親やきょうだいを亡くした遺族を対象とした聞き取り調査」（研究代表者：大倉高志）からの助成金を活用して実施しております。

プログラム

12:30より開場いたします

13:00	開会のあいさつ 同志社大学副学長 社会学部教授 木原活信 氏
13:05	講演「きょうだいを自死・自殺で亡くしたわたしたちの声」 きょうだいを亡くした当事者：高木俊人氏・はるか氏 ※講演後に質疑応答の時間を用意しております
14:00	講演「自殺できょうだいを亡くした遺児・遺族の支援を考える」 調査代表者：大倉 高志（岡山県立大学 保健福祉学部 准教授） ※講演後に質疑応答の時間を用意しております
14:20	対談「身近な人の自死とグリーフをめぐる語り合い ～自死をめぐる対話の活動と、若者のグリーフサポートの現場から～」 共同調査者：よだか・森本康平（リヴオンつどいばスタッフ/wish you were here）
15:00	フロアの感想共有 終わりの言葉

※ 上記時間、内容などは、変更の可能性があることをご了承ください

★ アーカイブ視聴：イベント後、数日中にすべての申込者に対して、本イベントの様子を収録した動画をメールにてお送りします。

登壇者の紹介



高木 俊人 高校一年生で弟を亡くした当事者／共同調査者／大学教員

高校1年生の時に2歳下の弟を亡くしました。その後大学進学とともに実家を離れてからは、のこされた家族全員で集まって過ごすことはほとんどありませんでした。それは弟の不在をよりはっきりとさせることにつながるからだったのかもしれませんが。大学院生の頃に大倉先生にお声がけいただき、調査に協力してきました。今回のフォーラムできょうだい遺族の経験をお話しすることで、調査活動の周知が進むとともに支援活動などの一助となればと思っています。



はるか 18歳で弟を亡くした当事者／共同調査者／安全な生徒指導を考える会

私は18歳の時に2歳下の弟を自殺（先生からのパワハラ）で亡くしました。現在は「安全な生徒指導を考える会」を作り、この問題に取り組んでいます。弟とは仲の良い2人きょうだいでした。あれから10年以上経ちますが、今でも弟がこの世にいないという実感が湧きません。当時は周りの同級生とは違う世界を生きている感覚で「この先どうしよう」と思いましたが、きょうだい遺族にはなかなか出会えませんでした。きょうだい遺族がどんな思いで、どんな人生を生きているのか、調査を通じて少しでも明らかになってほしいと思っています。



大倉 高志

調査代表者 /
岡山県立大学
保健福祉学部
准教授



よだか

母親を10歳で亡くす
共同調査者/リヴオン
つどいばスタッフ/
wish you were here
主宰



森本 康平

母親を0歳で亡くす
共同調査者/リヴオン
つどいばスタッフ/
wish you were here
主宰

【全国自死遺児500人調査】へのご協力をお願い：調査終了日2027年3月31日

親やきょうだいを自殺で亡くした当時、0～19歳だった方を対象に、全国500人規模の調査を行っています。死別後に、どのような情報や支援が求められていたのかを明らかにし、今後の自死遺児支援につなげることが目的です。本調査の趣旨にご賛同いただき、情報の周知・発信にご協力いただける方（報道関係者の方など）にも、ぜひご覧いただければ幸いです。詳しくはQRコードまたは下記のURLからご確認ください。

全国自死遺児500人調査ウェブサイト

<https://www.children-bereaved-by-suicide.com>

